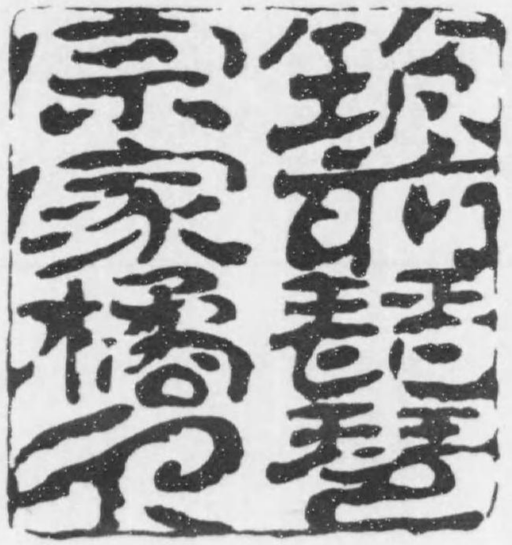
特116
953

橋旭翁作譜

湖水渡

始

特116
953



大正
3. 2.3
内交

曲

一、二、三、四、五、六、七、甲、乙……音調

鶯、雁、白波、時雨、如ク類其他何号、何番、何丁等……合の手

春、夏、秋、冬、旭、雲、露、月、夕日……節の名

大……大落し

小……小落し

山……山風し

五……五絃調

吟……吟替

流……流し

悲……悲哀

戦又は爭……戦又は爭

句……句切

續……續き

譜

上……上げ

下……下げ

尾上……尾上げ

尾下……尾下げ

引伸……引伸べ

引上……引上げ

引下……引下げ

淘伸……淘伸べ

淘上……淘上げ

淘下……淘下げ

淘上下……淘上下げ

淘廻し……淘廻し

強み……強み

閑二

湖水渡

南部露庵氏作

一 夫れ良禽は林を擇み——賢者は君を選むとかや 火

二 されど一旦身を許し主と頼みし人の為め 土

三 善惡共に身を棄てゝ桀狗が吉元に吠ゆるなる 金

四 忠義をなすも武士の弓矢の意地と知られけり 十五番

七 茲に明智日向守光秀は
五 味方もろくも打敗れ
三 早やかくれなく聞えけり 二番
六 明智左馬の介光俊は 金ゝ
五 軍の様子見んもの と 水地

六 天王山の一戦に
四 同勢四方に散亂すと
四 安土の城の留守居なる
四 君の先途の覺束なく
夏 上 急げば廻る瀬田の橋

中 敵に桑津の原越えて
四 大津の宿にかゝる頃
四 堀久太郎秀政が萬騎 三番
四 敵勢此處に来るからは
四 阪本城こそ大事なれ 四番

下 揉みに揉んでぞ打出の濱 鷹
ハッタと出逢ひ大軍は
四 光俊此度思ふやう 金ゝ
四 君の妻子の在すなる
四 さはさりながら今茲ぞ

五 小冠者単に出逢ふて
末代までの無念なる　七番
五 光俊やつて大音聲　七丁
四 天王山を取り切りし
三 いざ光俊が一期の名残
四 槍も合はさで退かんと
七 一当てあて返さばやと
五 ヤオレ秀政来たりしか　金ミ
四 武略は流石の敵なるぞ　二丁下
五 語りつがせん物共と　水ミ

五 味方の勇氣勵まし
四 巴卍字に切りなびけ　三丁
鬼神不思議の働きに　四番
五 浮足立ちし潮合を
六 さっとばかりに乗り脱けて
呑とばかり小大きかり　水地
四 西に東に出没し
さーもの大敵もてあまし
四 此所と見て取る一呼吸　大打
五 一息呑みしかけ聲小

四 馬は忽ち飛ぶ如く　十四丁
五 ざんぶとばかり躍り入る　火車
六 騎手は固より古今の達者　水く
神か人かと見るばかり　一丁下
五 眼の限り一碧乃　水地
七 名に負ふ近江の湖に　水打
七甲 馬は天下の逸物なり
五 真一文字に乗切る様は
三 水や空空や水
夏上 波を蹴立つる大鹿毛に
中 緋縅着たる左馬の介
七 無双の名人永徳が
夏上 墨繪の龍の陣羽織
下 或は緩に又急に
四 馬疲るれば人助け
下 一際目に立つ武者振に
六 丹精たゞめて画きたる
中 比叡山嵐に飜へし
五 揚鞭振ふ勇ましさ　十六丁下
五 人疲るれば馬に頼り　二丁下

五 さしもに廣き湖を
四 追手の勢も氣を取られ
あれよ〳〵と云ふばかり 八丁
射かけん人もなかりけり 水地
濱の此方ゝ打上り

事ともせざる不敵さに 金〻
五 醉るが如き心地して
五 只一筋の遠矢だゝ
秋 光俊やがて唐崎の
馬物の具の水はしらせ 五

三 愛馬の鬣掻撫で上げて
三 如何ゝ大鹿毛駒はれ 王
三 半は汝が勲功ぞ 六号
六 命と共に殺さんは
三 天晴汝は長生へて

哀別離苦の涙聲 五号
五 光俊多年武勇の誉
七 かゝる名馬を光俊が
八 いと〳〵惜き心地ぞする 九号
三 武勇勝れし主を取り 火

二 修羅の巷を走せめぐり 水

六 我武名をも後の世の 水

六 やよ三大鹿毛心得いかと 水

三 十王堂の柱つなぎ 十一号下

四 香の包を推し開き 十八番

五 さすがは明智が馬なりと 地

五 露武邊の語りに残せかし 八号

五 真心をめて言ひ聞かせ

四 やがて墨斗を取出し

四 天正十年六月十四日

☆ 明智左馬の介光俊

二 筆太々と書き残し

三 馬も名残を惜みてか

二 見返り勝に静々と 水

三 心のうちや如何ならん 燕

驚を以て湖水を渡る者也 十六号下

三 いざとばかりに立去れば 土

三 聲も哀れに嘶くを 火

五 坂本城に引揚し

六 あはれ桔梗の花枯れて

五 五三の桐の世となれど 金〻

六 日本一の名馬ぞと

五 舊主の名さへ武勇さへ 水地

中 朽せぬ譽今の世に

三 琵琶の湖琵琶の音に 水〻

四 此大鹿毛は秀吉に

四 最と珍重に召されたり 七下

春 上 花と稱へて幾千代も 王

下 比良の山より猶高く 切り

五 留めて語そ目出度けれ

三 留めて語そ目出度けれ

869
181

大正三年一月二十四日印刷
大正三年一月二十六日發行

定價 金貳拾貳錢

著作權所有
不許複製

橘旭翁作謠
筑前琵琶歌

著作兼發行者 東京市麹町區一番町三十二番地 橘一定

印刷者 東京市京橋區築地二丁目二十一番地 畑中爲之助

印刷所 東京市京橋區築地二丁目二十一番地 國光印刷株式會社

發行所 東京市麹町區一番町三十二番地 橘筑前琵琶宗家

終